

V. 特記事項

1. 地域活性化人材育成事業～SPARC～

山口はまぎれもなく、高い志をもち、未来に向かって挑戦し続けた“先覚者”吉田松陰の息吹が感じられる土地柄である。

予てより、本学は文部科学省の「地（知）の拠点大学による地方創生推進事業（COC+）」として採択された「やまぐち未来創生人材育成（YFL）定着促進事業」等、地域の大学と連携・協働し、若者の地元定着や地域が求める人材育成等を通じ地方の人口減少と地域経済の縮小に歯止めをかけ、地方創生につなげる事業等に携わってきた。

令和5年3月、山口大学、山口県立大学、本学の3大学による「一般社団法人やまぐち共創大学コンソーシアム」は、全国初の国公私による大学等連携推進法人として文部科学省の認定を受けた。3大学の連携と協調によるSPARC事業は、「大学等が地域の中核として機能していくため、地域社会と大学間の連携を通じて既存の教育プログラムを再構築し、地域が真に求める人材を育成する機関に転換することを目的とした事業（日本学術振興会）」とされており、学位プログラムにまで踏み込んだ、先んじた教育改革が求められている。本事業はwell-beingの考え方に立ち、デジタル技術者と協力してDXを実践し、ひとや地域（まち、文化、教育）の課題解決のために貢献できる「文系DX人材」の養成を目指している。

SPARC教育プログラムでは、身に付ける資質・能力として、①物事を俯瞰（メタ）的に捉え思考する力、②知的財産に関する知識、③データサイエンスに関する知識・技能、④地域の特性や特色を理解し、自ら課題を抽出できる力、⑤課題解決においてDXを実践できる知識・態度、⑥課題に対して、身につけた知識や技能を活用して解決に向けた企画・立案ができ、他者と協働して解決を図ることができる力、を掲げている。

「宇部学園ビジョン2030」の掲げる「Society5.0の時代に求められる新たな資質・能力を兼ね備えた人材の確実な育成に努め、広く社会に貢献し、地域社会の発展に不可欠な存在として躍進することをめざす」本学は、教員養成を主たる使命とする。本事業が標榜する「文理横断型のSTEAM教育」と「DXによる地域課題解決PBL」は、「地域社会の発展にはDX推進が不可欠であることを理解して、子どもたちに伝えることができる能力を身に付けた教員」、すなわち「将来のDX推進に貢献できるSTEAM人材を育てる教員」の養成という本学が地域において担う役割と整合する。

令和6（2024）度から、「文系DX人材」の養成に関わる科目を既存の教育学部の学位プログラムに整合的に盛り込み、「文系DX教員養成プログラム」として新たな教育課程を試行した。3大学の連携開設科目として4科目（「データ科学と社会Ⅰ」「データ科学と社会Ⅱ」「データ科学のための基礎数学」「知的財産入門」）、そして本学独自の5科目（「自主課題演習Ⅰ」「大学教育基礎演習」「哲学」「美術概論」「地域理解」）を開講した。令和6（2024）年度入学者のうち“7人の1年生”が登録した。

3大学連携の要となる連携開設科目のより円滑な運用を考え、学年暦の整合性を高め、時間割を3大学間で統一する等、挑戦的な制度上の改善を行った。

令和10（2028）年3月、新たな“地域未来創造人材育成（びと）”が単立つことになる。